

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

＜エントリーシート＞	部門	学校名・氏名
※事務局記入欄	平成 30 年 第 2 回教頭・副校長研修	茨城県立佐竹高等学校・谷津 勉
No. : A - 31	活動名	
	主題 : 「カリキュラムマネジメント」 副題 : ~グランドデザインの作成を通して~	

課題の設定 :

目標 : 次期学習指導要領のポイントであるカリキュラムマネジメントを推進する。
 課題 : 次期学習指導要領は生徒の資質・能力の向上をめざすが、現状として教科横断的に生徒の資質・能力を向上させる方法を見いだすことが困難である。
 これまで高等学校の各教科では、知識を中心とした学力の向上を目指してきたが、今後は学校全体を通して育成すべき資質・能力を明確にする必要がある。
 ※早稲田大学教授 河村 茂雄先生の講座などを参考に推進した。

方針・計画 :

学校全体で生徒の資質・能力の向上を図るため、学校の目指す生徒像を明確にし、それを下支えする資質・能力も明確にして、学校のグランドデザインを作成し、かつそれを各教科のグランドデザインに落とし込むことにより、教科間連携型の教育システムを構築する。
 ※平成 29 年度いばらき高等学校学力向上推進総合事業における茨城県立友部高等学校における取組
 ※別紙グランドデザインの考案者は横浜国立大学高木展郎教授である。

活動内容 :

新学習指導要領の構造を意識した学校のグランドデザイン(別紙上部)を職員全員で作成する。そこで設定した目指す生徒像を育成するために、新学習指導要領の構造を意識した各教科のグランドデザイン(別紙下部 例:国語・理科)を作成する。
 各教科のグランドデザインを全職員で共有することによって教科等を相互につなぎ、生徒が知識として「何を知っているか」にとどまらず、その知識を活用して「何ができるようになるか」まで発展させることを目指す。
 ※別紙グランドデザインは平成 29 年度に茨城県立友部高等学校で作成したものである。
 ※昨年度前職(茨城県教育庁高校教育課)時、上記事業の担当アドバイザーとして関わった。

活動の成果 :

学校及び教科のグランドデザインの作成の過程で、教員間でディスカッションできる(世代間)交流の雰囲気ができ、ボトムアップ型の授業研究(どのように学ぶか(主体的・対話的で深い学び))も活発になった。また、作成を通して、学校の目標をより具体的に確認するとともに、各教科の目標が明確化、共有化された。そのため、教科書の内容理解等中心で漠然と行っていた授業展開への改善が試みられるようになった。さらに、授業に目標が立てられ、その振り返りもなされる PDCA サイクルにより、教育の質が向上した。

アピールポイント(アイデアや工夫) :

○新学習指導要領の構造を意識した学校のグランドデザインは、学校の目標と実現する方法が一目瞭然
 ○新学習指導要領の構造を意識した学校のグランドデザインを全職員で作成する中で、生徒の実態を把握し、目指す生徒像を適切にセッティングすることができ、各教科等で育成すべき資質・能力を明確にできる。
 ○新学習指導要領の構造を意識した各教科のグランドデザインを作成することで、各教科等で育成すべき生徒の資質・能力の相関を認識して授業に臨め、教科横断的に教育の質を向上させることができる

